

マルキンだより



畜産PR大使「おーいたん」

公益社団法人 大分県畜産協会 TEL:097-545-6594
FAX:097-554-4049

第119号

令和2年10・11・12月分交付金精算払単価公表

肉用牛肥育経営安定交付金制度の令和2年10・11・12月分の交付金確定単価が公表されましたので、精算払いを行います。

また、12月分の公表された交付金単価は交雑種については、29,124.9円・乳用種については、38,791.8円の交付となります。

なお、肉専用種につきましては、交付はありませんでした。

詳細につきましては、肉用牛肥育経営安定交付金制度の交付金単価について【令和2年10・11・12月分】(独立行政法人農畜産業振興機構発行)をご覧ください。

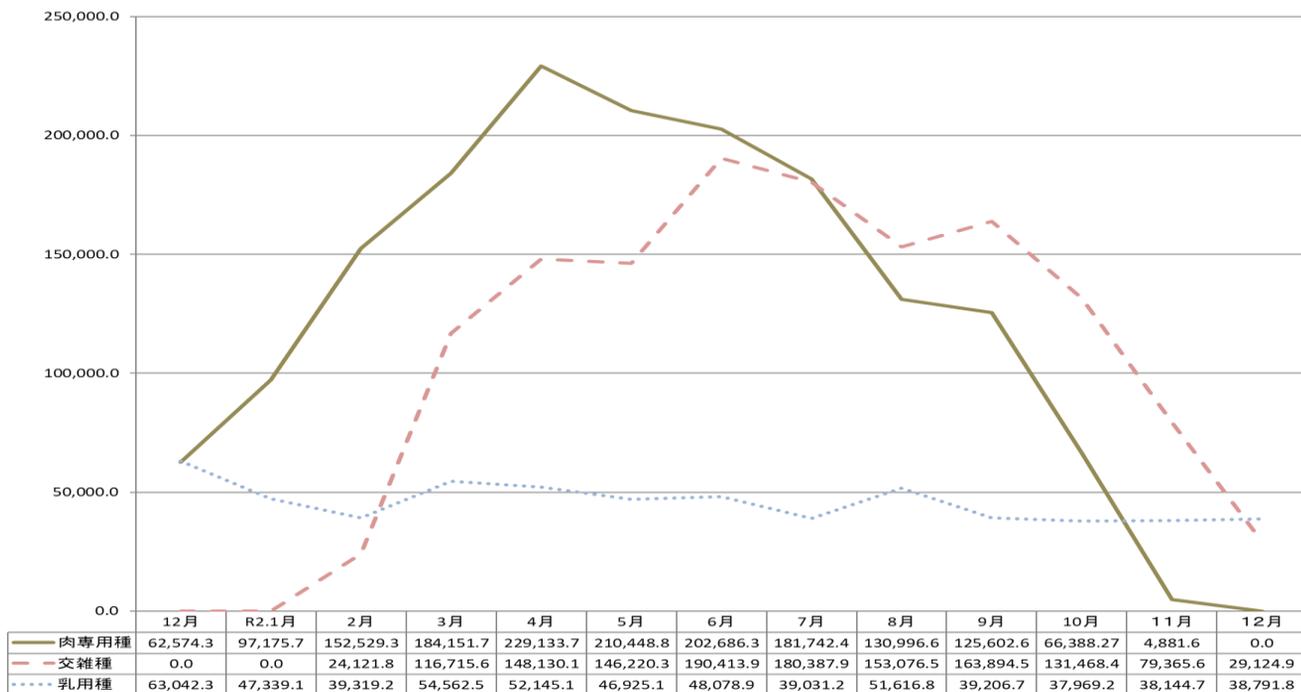
トピックス

●令和2年12月分の単価(概算)が公表されました。

●10・11・12月分の交付金交付は、2月24日(水)を予定しております。

交付金発動状況

単位:円



牛マルキン事業に関するホームページ

★公益社団法人 大分県畜産協会 <http://oota.lin.gr.jp/>

当協会のホームページです。マルキン情報の他、市場結果、種雄牛情報等も掲載しております。

★独立行政法人 農畜産業振興機構 https://www.alic.go.jp/operation/livestock/assistance-marukin_00002.html

補填金単価の公表の他、単価算定に関する各種参考資料等が掲載されております。

★畜産物の市況展望【牛肉】

～GoTo 停止、時短で和牛上物は弱気配

通常商材の需要根強く底堅い展開に～

1月の牛枝肉価格は、年末からはコロナの感染拡大が顕著となり、GoTo キャンペーンの停止、首都圏をはじめ大阪、東海、九州へと緊急事態宣言が各地で発令されたことで年明けの牛肉需要は一気にブレーキがかかった。昨年12月の高値玉を抱える問屋も少なくないことから正月休み明けの補充手当ての動きは鈍く弱気に転じた。

12月の牛枝肉価格は、和牛は去勢A5が前月比139円高の2,905円（前月同月比141円高）、同A4は132円高の2,650円（同325円高）、同A3は65円高の2,322円（同376円高）、同A2は129円高の2,124円（同348円高）と一昨年に匹敵する強さだった。

交雑種も上方修正され、B4が156円高の1,871円（同18円高）、B3が102円高の1,709円（同15円高）、同B2は32円高の1,503円（同9円安）。B3、4が前年実績を上回ったのは2020年では初めてである。

当初、年明け以降も安定した需要が見込まれたが、コロナの収束のめどが立たず、2月中の宣言解除は難しいとの見解が示される中、経済対策の柱の1つであったGoTo キャンペーンの再開が絶望しされること、東京オリンピック開催も危ぶまれつつあることから不透明感は強まり、枝肉価格は弱気に転じた。末端需要は12月前半までは各種施策によりホテル、レストランの需要は良好だったが、GoTo 停止で地方の観光業、飲食店は需要が冷え込んだ。さらに緊急事態宣言の発令でホテルは深刻な打撃を受けている。「春先までの宴会予約はキャンセルが相次ぎ、ほぼゼロになった。先の見通しが全く立たない」（ホテル関係）と厳しい状況で、今後は高級部位の重荷感が強まる懸念がある。

半面、小売は今後も伸長が見込まれるが、経済情勢は一層厳しく、昨年までの上質提案から価格訴求型の売り場、商品展開に切り替えが進みそうで比較的単価が安いものへ引き合いが振れるかもしれない。春先に向けて焼き材を強化する動きもあり、量販店では「おうちで焼肉」などの訴求が進みそう。

2月は和牛去勢A5で2,500円前後、A4で2,200～2,250円、A3で2,150円。交雑種は去勢B3で1,500円～1,550円。

（※公益社団法人中央畜産会 発行 畜産コンサルタント誌2月号 抜粋）